



将来都市像の実現に向けて

第5次総合計画は平成23年度(2011年度)にスタートしましたが、平成27年度(2015年度)末に前期基本計画が終了するにあたり、平成32年度(2020年度)をゴールとする後期基本計画を策定しました。

この5年間、基本構想で定めた将来都市像「市民の力が輝く 共生のまち 宝塚 ～住み続けたい、関わり続けたい、訪れてみたいまちをめざして～」の実現をめざして、計画を推進してきましたが、少子高齢化の進行、人口減少への転換期の到来、東日本大震災の発生を契機とした安全・安心に対する意識の高まり、高度情報化社会の進展など、本市を取り巻く状況は大きく変化しています。

本計画は、このような状況の変化を踏まえながら、現状と課題を精査した上で、策定したものです。課題の中でも、高齢化の進行については、現在、4人に1人が高齢者となっている現状などから、「超高齢社会に対応したまちづくり」を、分野や施策の枠を超えて横断的に取り組む重点目標として加え、対応していくこととしています。

本計画の策定にあたっては、市民アンケートを実施し、総合計画検討市民会議、総合計画審議会において議論を重ね、パブリック・コメントで意見を募るなど、多くの市民の皆様参加を得て、協働により策定したものです。平成25年(2013年)3月に、「協働の指針」を策定し、指針に基づく協働の取組を広げてきましたが、後期基本計画においては、さらに協働のまちづくりが進むよう、各施策における市民の取組を充実して記しています。

一方、行政の取組としては、ICT(情報通信技術)の活用による市民との情報共有、地域と連携するための組織体制の見直し、市民参加の裾野の拡大などを記し、協働型の行財政運営を、さらに進めることとしています。将来都市像の実現に向けて、あらゆる分野において協働の取組を進め、総合計画を推進していきます。

結びに、本計画の策定にあたり、熱心にご審議いただきました、総合計画審議会委員の皆様を始め、貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆様、市議会ならびに関係各位に心から感謝申し上げますとともに、今後とも一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

平成28年(2016年)3月

宝塚市長

中川 智子